

<第106回調査>

2018年3月26日

【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施していましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

【調査実施期間】

2018年3月13日(火)13:00～2018年3月20日(火)13:00
※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクストネオ』に口座を開設のお客様層

【調査方法】

(株)外為どっとコムの口座開設者にメールでアンケート回答URLを送付。
今回の有効回答数は748件。
※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

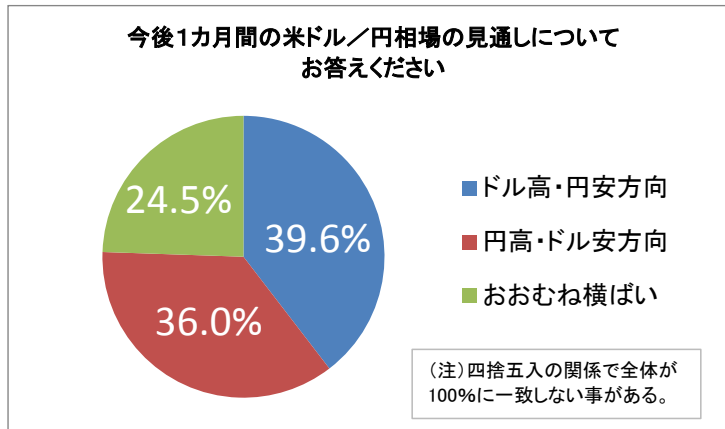
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2018 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第106回調査結果略報：円強気の見通しが後退】

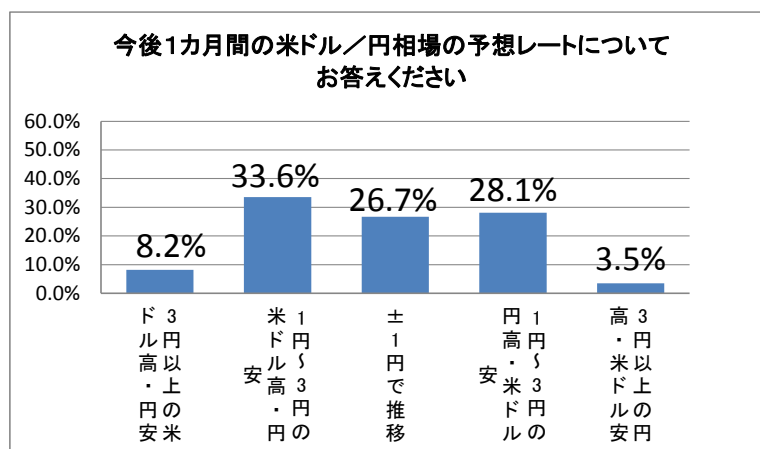
問1：今後1カ月間の米ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が39.6%であったのに対し「円高・ドル安方向」と答えた割合は36.0%であった。この結果「米ドル/円予想DI」は△3.6%ポイントと、前回(▼22.3%ポイント)から上昇して3カ月ぶりにプラス圏に浮上した。調査期間中の米ドル/円相場は、105.60~170.20円台の狭いレンジで推移。トランプ米大統領による政権幹部の解任が続いた事や米保護主義政策への懸念などから上値は重かったが、そうした悪材料が続く中でも105円台では驚異の粘りを見せた。なお、この期間は引け値が106.00円を下回る事は一度もなかった。多くの個人投資家がこうしたドル/円の底堅さに反発の芽を感じたのかもしれない。※過去の米ドル円予想DIの推移はP6-7に掲載。



問2：今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レートについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レート」については、「1円~3円の米ドル高・円安」が33.6%と最も多く、「1円~3円の円高・米ドル安(28.1%)」、「±1円で推移(26.7%)」と続き、以下「3円以上の米ドル高・円安(8.2%)」、「3円以上の円高・米ドル安(3.5%)」の順になった。ヒストグラムの形状はなだらかな台形に近く、米ドル高・円安派、円高・米ドル安派、横ばい派の三派の勢力が拮抗している様子が見て取れる。個人投資家の見通しに大きな偏りが見られなかった問1の結果と整合的だ。



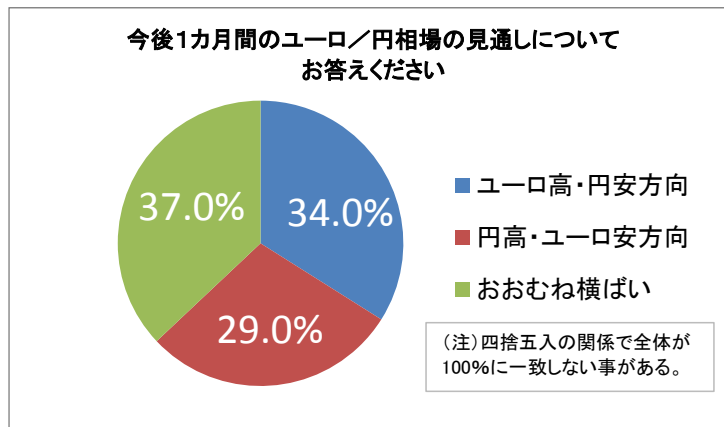
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2018 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問3: 今後1カ月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

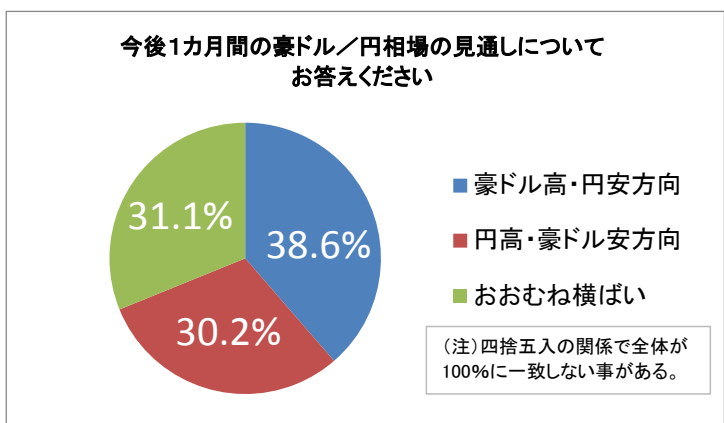
「今後1カ月間のユーロ/円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が34.0%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が29.0%であった。この結果、「ユーロ/円予想DI」は $\Delta 5.0\%$ ポイントとなり、前回($\nabla 8.8\%$ ポイント)から上昇してプラス圏を回復した。調査期間中のユーロ/円相場は、130円の大台を割り込む場面もあったが、欧州中銀(ECB)内で利上げの議論が高まりつつあると報じられた事などから下げ渋った。個人投資家の間でもECBの利上げ期待に根差したユーロ先高感が復活しつつあると言う事だろう。

※過去のユーロ円予想DIの推移はP6-7に掲載。



問4: 今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が38.6%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合は30.2%であった。この結果「豪ドル/円予想DI」は $\Delta 8.4\%$ ポイントとなり、前回($\nabla 11.5\%$ ポイント)から上昇してプラス圏を回復した。調査期間中の豪ドル/円相場は、米中貿易摩擦への懸念などが重しとなり、84円台から81円台まで下落。一時81.25円前後まで下落して約1年4カ月ぶりの安値を付ける場面もあった。もっとも、この水準を割安と見る個人投資家は少なくないようで、年始以来の下落トレンドに逆らう形の逆張り志向が伺える結果となった。※過去の豪ドル円予想DIの推移はP6-7に掲載。



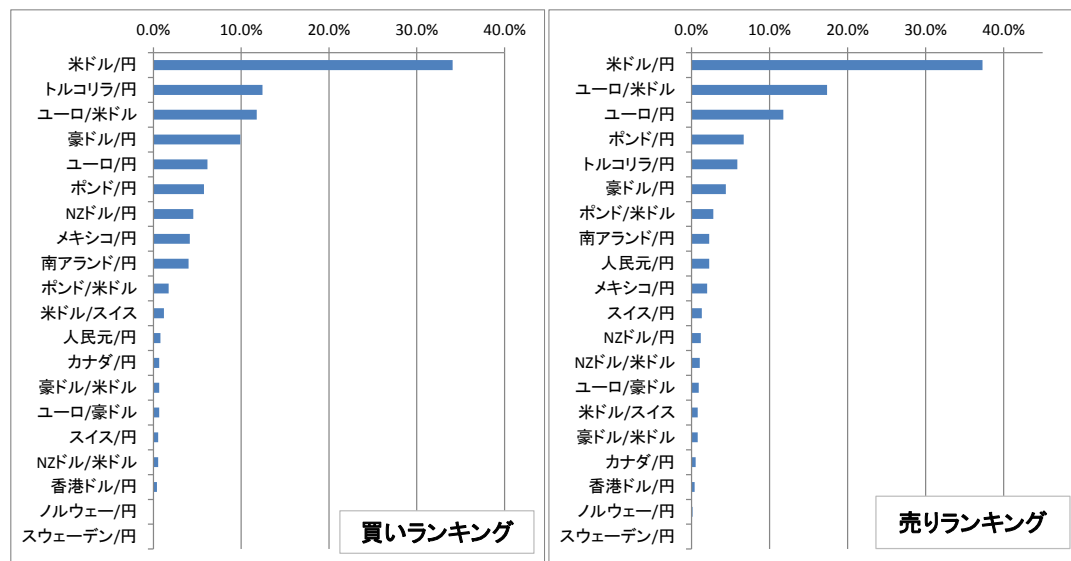
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2018 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目の通貨ペアは、米ドル/円が34.1%の回答割合を集めて1位でとなり、66カ月連続で首位をキープ。以下、トルコリラ/円(12.4%)、ユーロ/米ドル(11.8%)、豪ドル/円(9.9%)、ユーロ/円(6.1%)の順に続いた。今回はトルコリラ/円と、豪ドル/円が前回からひとつずつ順位を上げたのが印象的だ。トルコリラ/円は調査期間中に史上最安値を更新。豪ドル/円も問4で触れたように約1年4カ月ぶりの安値を付けており、個人投資家の逆張りスタンスが如実に表れた。

一方、「売り」で注目の通貨ペアは米ドル/円が37.3%の回答割合を集めて17カ月連続で首位をキープした。以下、ユーロ/米ドル(17.4%)、ユーロ/円(11.8%)、ポンド/円(6.7%)、トルコリラ/円(5.9%)の順に続いた。こちらは、上位陣の顔ぶれや回答割合に目立って変化はなかったが、トルコリラ/円が豪ドル/円に変わって5位に入った。トルコリラは国際決済銀行(BIS)の調査によると、世界の為替取引に占める割合が0.7%程度しかない「マイナー通貨」だが、日本の個人投資家の間では、比較的人気の高い通貨となっているようだ。

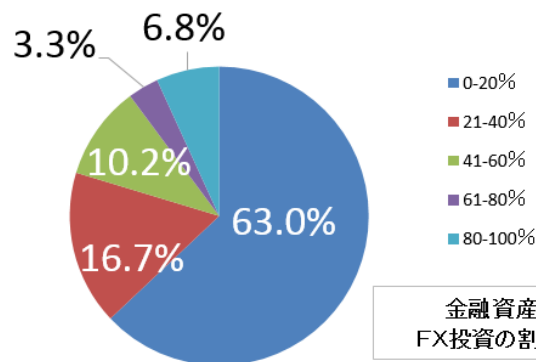


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2018 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

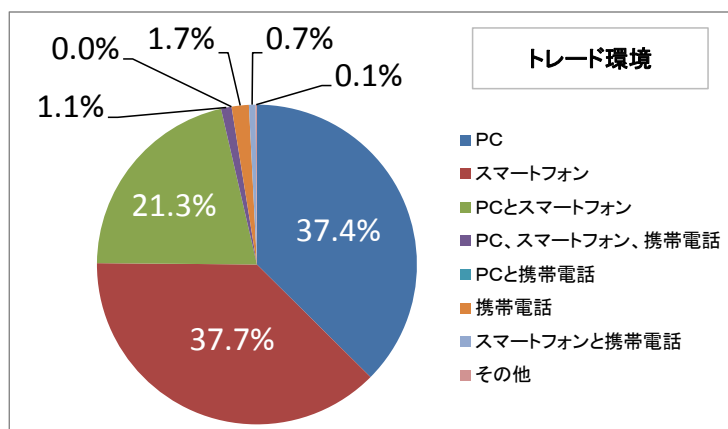
問6:FX投資は、お持ちの金融資産の何%に相当しますか？

今回の特別質問として、「FX投資は、お持ちの金融資産の何%に相当しますか？」と尋ねたところ、「0-20%」が63.0%と圧倒的に多かった。次いで「21-40%(16.7%)」、「41-60%(10.2%)」、「80-100%(6.8%)」、「61-80%(3.3%)」という結果であった。FX投資が占める金融資産の割合と回答割合が概ね反比例したが、FX取引の最大の特徴でもあるレバレッジの存在を考慮すれば、当然の結果と言えるかもしれない。なお、「金融資産の内訳についてコメント欄に記載ください」と重ねて尋ねたところ、「0-20%」「21-40%」とした層からは株式・債券・投信・銀行預金のほか、仮想通貨やソーシャルレンディングに投資しているとの回答もあった。一方、「81-100%」とした向きの半数近くが「FXのみ」と回答した。



問6:FX投資を行う中で、主にどのような投資環境でトレードをしていますか。(ひとつだけ)

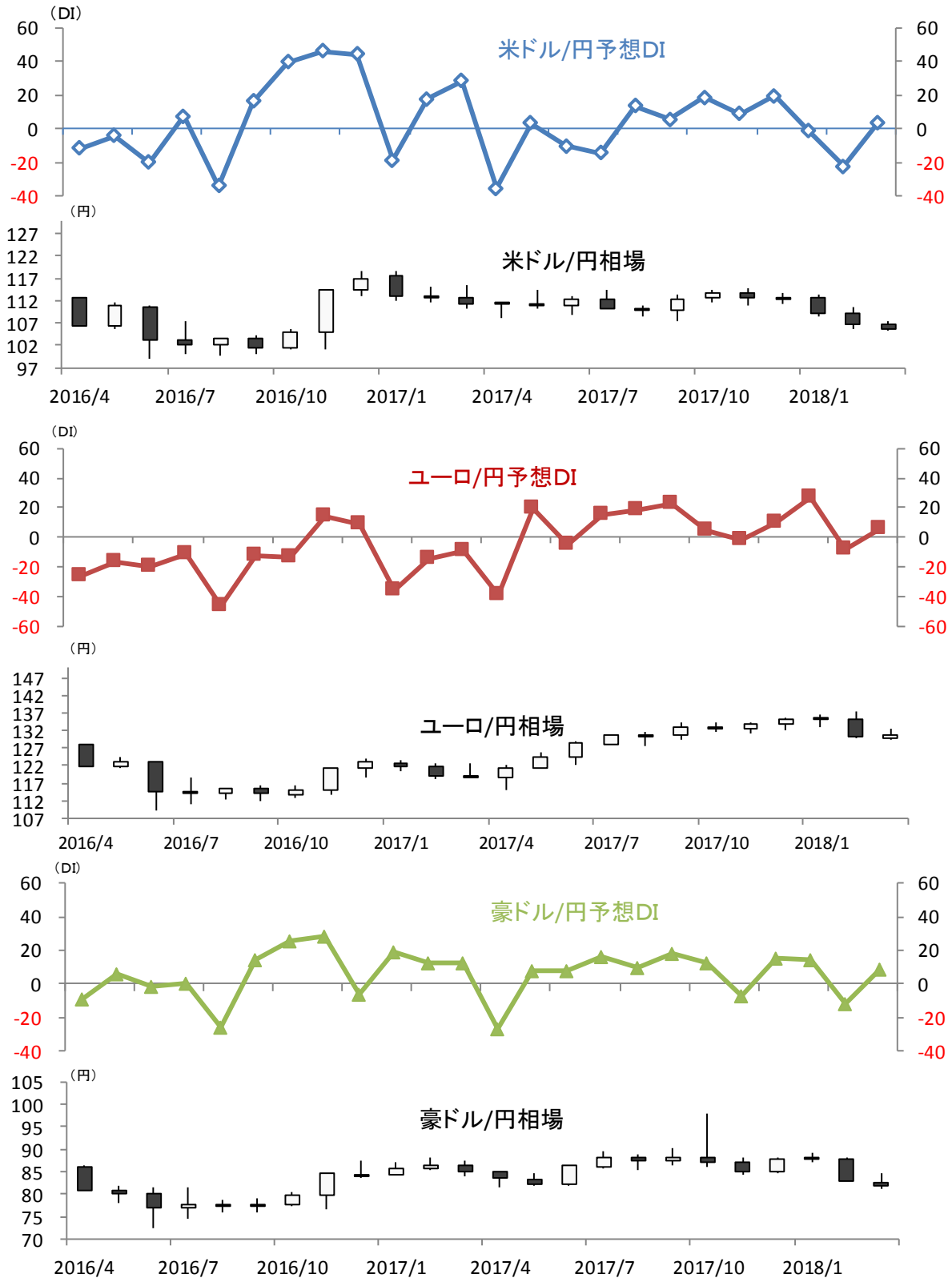
今回のもうひとつの特別質問として、「FX投資を行う中で、主にどのような投資環境でトレードをしていますか。(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「スマートフォン」と答えた割合が37.7%と最も多く、初めて「PC」の37.4%を僅かながら上回った。なお、前回1年前の調査では「スマートフォン」の36.0%に対して「PC」は43.7%であった。また、「PCとスマートフォン」との回答割合も1年前の17.4%から今回は21.3%に増加した。総務省の平成29年版通信白書によると個人の「スマートフォン」保有率は56.8%に上昇している。そうした中、取引機会が24時間に及ぶFXにおいて「スマートフォン」を使った取引が増えるのは自然な流れなのだろう。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2018 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表:主要3通貨ペア予想DIと足の推移】



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。Copyright©2018 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第106回目となりました。調査開始から8年以上が経過し、データの蓄積が進んできました。今後については、毎月定点観測で実施する調査結果を基に、予想DIの時系列比較から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などのほか、中長期的な視点に基づいたFX投資家の投資スタイルの変化などの考察も進めていきたいと考えています。

なお、毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年年初以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル/円			ユーロ/円			豪ドル/円			
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI	
2016年	4月	30.2	50.2	-20.0	24.2	43.9	-19.7	34.2	35.7	-1.5	
	5月	40.8	33.4	7.4	22.6	38.2	-11.6	35.7	35.3	0.4	
	6月	26.3	60.2	-33.9	20.0	67.0	-47.0	24.8	50.5	-25.7	
	7月	48.3	32.1	16.2	32.1	44.7	-12.6	44.2	29.8	14.4	
	8月	26.5	48.9	-22.4	17.2	48.1	-30.9	25.9	40.2	-14.3	
	9月	34.5	36.8	-2.3	23.8	38.0	-14.2	28.4	35.4	-7.0	
	10月	57.3	17.6	39.7	24.2	37.7	-13.5	43.3	23.0	20.3	
	11月	65.9	19.9	46.0	38.7	24.8	13.9	47.0	21.2	25.8	
	12月	64.4	20.2	44.2	36.6	28.3	8.3	50.0	21.6	28.4	
	2017年	1月	35.2	54.0	-18.8	18.3	54.1	-35.8	28.9	35.5	-6.6
		2月	46.2	28.7	17.5	23.8	38.1	-14.3	41.9	23.1	18.8
		3月	53.3	24.7	28.6	27.6	37.4	-9.8	36.1	23.1	13.0
4月		21.6	51.7	-35.5	17.7	56.6	-38.9	19.6	46.4	-26.8	
5月		38.4	35.3	3.1	45.9	26.5	19.4	34.9	27.0	7.9	
6月		33.3	43.4	-10.1	31.5	37.1	-5.6	33.7	25.7	8.0	
7月		30.7	45.2	-14.5	42.4	27.6	14.8	42.8	26.9	15.9	
8月		45.5	32.0	13.5	43.8	25.3	18.5	37.3	27.9	9.4	
9月		40.8	35.0	5.8	44.4	22.0	22.4	40.9	22.7	18.2	
10月		48.2	29.4	18.8	35.5	31.5	4.0	37.9	25.6	12.3	
11月		40.0	31.1	8.9	29.0	31.4	-2.4	26.9	33.8	-6.9	
12月		45.5	26.1	19.4	35.0	25.0	10.0	38.0	22.6	15.4	
2018年	1月	38.0	39.2	-1.2	48.2	21.3	26.9	37.3	22.6	14.7	
	2月	29.1	51.4	-22.3	30.1	38.9	-8.8	28.4	39.9	-11.5	
	3月	39.6	36.0	3.6	34.0	29.0	5.0	38.6	30.2	8.4	

(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2018 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com